

大野 立志 議員

(一問一答方式)



- ①財政について
- ②人口減少対策について
- ③観光行政について
- ④通報制度について

令和7年度当初予算編成方針について

問 来年度の当初予算編成方針についてどのように考えるか。

答 令和7年度当初予算編成方針では、物価や人件費の上昇が続く中で大変厳しい財政運営になることを踏まえ、引き続き肱川の治水対策の強化に取り組み、SDGsの目標を意識して、市民の皆様が健康で心豊かに、将来世代も安心して暮らすことができ、誰もが幸せを実感できるウェルビーイングなまちを目指していくことを予算編成の基本的な考え方としています。

特に、限られた財源を効率的、効果的に配分するため、令和7年度においては、「人口減少対策・子育て支援の充実」、「防災・減災対策及び流域治水・GXの推進」、「デジタル化・業務改革の推進」の3つの事業を優先順位の高い事業として位置づけることにしました。

このような重点事業に取り組んでいくためには、これまで以上に持続可能な財政運営を意識していかなければならないと考えています。特に令和5年度決算における本市の経常収支比率は、県内の自治体の中でも最下位となり、これ以上に財政構造の硬直化が進むことになれば、市独自の人口減少対策などの施策を実施することが困難となります。

そのため、職員一人一人が本市の財政状況を認識しながら、各取組の必要性や効果について十分な精査を行い、優先度による事業の取捨選択を行うこと、また、前例にとらわれず、事務事業を抜本的に見直すことによって将来負担の軽減を図りながら、市民ファーストの目線やBPRの視点で効率的な行政運営を目指していきたいと考えています。

市民の皆様が心豊かに安心して暮らすことができ、次の世代においても住み続けたいと思える持続

可能な地域づくり、そして、持続可能な財政運営を目指した予算を編成していきます。

就労の場の確保について

問 市外からふるさとでの生活を希望される方の中には、就労の場の確保が心理的にも高いハードルになっている場合もある。Uターン希望者への対応についての考えを伺いたい。

答 本市では都市圏の移住イベント開催時のほか、移住・定住支援センター訪問のお客様に対して、ハローワーク大洲提供の求人情報の紹介をしています。

また、大洲イノベーションセンターでは、同センターを活用した新しい働き方の推進、新規事業の創出や起業家の育成などの支援に取り組んでいます。

そのほか、新規大学卒業者の採用を目指している市内3社の事業者が協働で取り組んでいるインターンシップ事業に対して、市も連携して取り組んでいるほか、大洲市中小企業・小規模事業者応援事業補助金により、採用募集やインターンシップ受入れ、求人情報掲載などの費用を支援するなど、企業が求める人材受入れの確保に努めています。

キャッスルステイ・古民家ホテルの経営状況について

問 キャッスルステイ、古民家ホテルの事業実施に当たり、当初の事業計画のとおりに進んでいるのか、現状を伺いたい。

答 キャッスルステイについては、令和2年の開始から、これまでに54組235人の方の利用があり、メディアにも大きく取り上げられるなど、目的の一つである本市の知名度向上に大きな効果を発揮しているものと考えています。

また、古民家ホテルについては、計画していた分散型ホテル26棟31室の補助事業の整備が昨年度完了しており、総事業費は約9億8,400万円となっています。ホテルの稼働率については、コロナ禍において非常に厳しい状況ではありましたが、アフターコロナ以降の稼働率は増加傾向であり、目標数値に近づいています。